

BBS GROUP NEWS

(お客様とBBSをつなぐコミュニケーションツール)

BUSINESS BRAIN SHOWA - OTA GROUP NEWS

Vol.54
JANUARY 2018

セミナーレポート

「創立50周年記念フォーラム」

サービス紹介

業務のペーパーレス化をサポート

帳簿、決算・取引書類保存の電子化で業務効率の向上へ

グループ会社紹介

“働き方改革”を支える！

人事給与アウトソーシングサービス

「Bulas」

ARTWORK : TADASHI URA

「創立50周年記念フォーラム」



開催概要

日 時 2017年11月7日(火) 13:50~19:30
 会 場 東京コンファレンスセンター・品川
 主 催 株式会社ビジネスブレイン太田昭和
 参 加 者 数 約350名

変革の時代を勝ち抜くために

大きな変革の時代を迎え、企業経営においてもAIやIoT、FinTech、ロボティックといった新しい技術や仕組みを導入して革新を図っていくことが重要なテーマとなっています。こうした動向を見据え、BBSグループでは、2017年11月7日、「IFRS時代の経営管理フォーラム」を開催しました。

当日は、350名を超えるお客様を前に、BBS代表取締役社長の石川俊彦が登壇。2017年に創立50周年を迎えたことに触れ、お客様に感謝の言葉を述べるとともに、今後もお客様の利益創出に貢献できるよう邁進すると決意を表明しました。このあと、特別講演、お客様講演、基調講演と続き、最後は九代目桂文楽師匠から特別な高座でしか披露されない古典落語「心眼」をご口演いただき、好評のうちに終了しました。

プログラム

- ◆ご挨拶
(株)ビジネスブレイン太田昭和 代表取締役社長 石川 俊彦
- ◆特別講演 **3P**
RPA/Digital Labor革命の衝撃
RPAホールディングス(株) 代表取締役 高橋 知道 氏
RPAテクノロジーズ(株) マネージャー 笠井 直人 氏
- ◆お客様講演 **4P**
サントリーにおける経理業務革新への取り組み
サントリービジネスシステム(株) 経理センター部長 国部 潤一郎 氏
- ◆基調講演 **5P**
脳を高め情報処理能力を飛躍させるSRS速読法
群馬パース大学 学長 栗田 昌裕 氏
- ◆BBS寄席
落語家 九代目 桂 文楽 師匠
- ◆懇親会

特別講演

RPA/Digital Labor革命の衝撃

講師

RPAホールディングス株式会社 代表取締役 高橋 知道 氏
RPAテクノロジーズ株式会社 マネージャー 笠井 直人 氏

上場企業の10%がすでに導入 今後ホワイトカラー業務の47%がRPAに

特別講演は、RPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)とAIを活用した事業創造を進めるRPAホールディングス株式会社の高橋知道氏と、同社の100%子会社でRPAに関するソリューション提供において国内No.1の実績をもつRPAテクノロジーズ株式会社の笠井直人氏から、「RPA/Digital Labor革命の衝撃」と題してお話いただきました。

講演では、まず高橋氏がRPAの定義について解説。「RPAは、ルールエンジンやAIなどの認知技術を活用して、主にホワイトカラーの業務を効率化・自動化する概念であり、人が担っていた業務を補完できることから仮想的労働者(Digital Labor)とも言われています」と話しました。少子高齢化に伴う労働人口の減少に対する解決策の1つとして注目されており、日本での経済的インパクトは70兆円規模と見積もられていること、さらにホワイトカラー業務の47%がRPAに置き換わるとの予測があり、日本でもすでに上場企業の10%が導入していると現状を紹介しました。

また、今後はスマートフォンやPC、インターネットと同様、RPAはあらゆる業務で必須のツールになるとの予測のもと、各業界のトップ企業と組みRPA/AIを活用した新事業を創造するとともに、経理財務・人事総務の分野ではBBSと提携・協力し、RPAを推進していくとの抱負を語りました。

人間をルーチンワークから解放し 個人と企業の付加価値向上に貢献

続いて登壇した笠井氏は、RPAという言葉が登場する以前の2008年からロボット代行として事業を展開しており、RPA導入をワンストップで支援していることを紹介しました。RPAの主なターゲットとなっているのは、ルーチンワークなど「投資対効果ははっきりしない」といった理由で、人が手作業で行っている業務です。これをDigital Laborに代行させると、200倍の業務スピードや100%の正確性など高い能力を発揮する上、24時間365日稼働し、病欠や離職もなく、RPAツールを使用することで業務内容を確実に記録できるため、変化にも柔軟に対応。これによって、リードタイム、品質、コストの最適化を図ることが可能になると、導入のメリットを語りました。

次に、笠井氏は導入事例を紹介。大手生命保険会社では請求書関連の業務にRPAを導入し、従来は1件あたり数分かかっていた業務を20秒程度に短縮したことや、メガバンクでは、複数部署にまたがる業務にRPAを導入することで、年間8,000時間分の作業削減に成功したと話しました。そして、「単なる人員削減ではなく、Digital Laborにルーチンワークを任せることで、人がより創造的な業務に従事できるインフラとして機能させていきたい」と、めざす目標を提示し、特別講演を締め括りました。



PROFILE

高橋 知道

Tomomichi Takahashi

アンダーセンコンサルティング(現アクセンチュア)を経て、ソフトバンク(現ソフトバンクグループ)に移り、衛星放送事業やシリコンバレーとのJVを担当。2000年、RPAホールディングスを設立し、代表取締役に就任。



PROFILE

笠井 直人

Naoto Kasai

東京外国語大学卒業。ヒンディー語専攻。RPAテクノロジーズ(株)での長期インターンを経て、2015年に入社。文系出身でありながら、ソフトウェアロボットの営業からマーケティング、デリバリー(導入)まで幅広く携わる。

お客様
講演

サントリーにおける経理業務革新への取り組み

講師 サントリービジネスシステム株式会社 経理センター部長 国部 潤一郎 氏

専門性の求められない業務をBPO リソースを付加価値業務へシフト



お客様講演には、サントリーグループで人事、総務、経理、ITなどの業務を担当するサントリービジネスシステム株式会社こくぶの国部潤一郎氏が登壇。

6年前から取り組んでいる経理業務革新の歩みについて語っていただきました。

国部氏は、サントリーグループの企業理念や事業内容の紹介に続き、経理センターでは、必ずしも専門性の求められない業務をアウトソーシングし、その分のリソースを付加価値業務へシフトするという業務改革の基本的な考え方を説明。この考え方に沿って2011年から中国・大連で運営している会計伝票のBPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)について紹介しました。

それまで同社では、各部署の担当者が会計伝票のデータを入力していたため誤謬リスクが高く、作成伝票をすべて経理センターに集めてサンプルチェックしていましたが、国部氏はこれを「負荷の高いプロセスだった」と説明します。そこで、各部署の伝票をアウトソーサーの国内拠点で電子化し、大連で入力・承認・全件精査する仕組みを構築。その結果、各部署で作成するのは仕訳メモのみとなり、現場の負荷は激減。全件チェックを実施することで精度が向上し、経理センターの負荷も削減されました。さらに

2016年からは、中国における人件費高騰や雇用難、人為ミスへの対策として、OCRとRPAで伝票入力業務の一部を自動化していることも説明しました。「効率は着実に改善しています」と成果を紹介するとともに、伝票が紙からデータへ移行する数年後を見据え、最適なプロセスの研究を進めていると話しました。

4つのポイントを評価し BBSを決算BPOのパートナーに

講演の後半は、BBSのサービスを利用して2017年10月から開始した決算BPOについて紹介しました。まず、国部氏は「決算業務は繁閑の差が大きく、“働き方改革”のために社外リソースの活用を決めた」と経緯を説明。その上で、BBSをパートナーに選んだ理由として、①BPOセンターが国内(熊本)にあり、緊密なコミュニケーションが可能なこと、②公認会計士など専門家のサポートが期待できること、③税理士のサポートで税務申告までBPOできること、④システム部門のスキルが高いことに加え、RPAテクノロジー株式会社との業務提携で、RPA導入によるコスト削減が期待できること——の4点を挙げました。

この取り組みはスタートして間がないものの、BBSのノウハウを活用することで多くの業務でBPO化が進み、BBSは実作業、経理センターは成果物の確認という役割分担を明確化したことで、業務効率も確保されていると述べました。このように一連の業務革新の歩みを紹介したあと、「BBSとの連携を強化し、RPAの導入や業務の標準化を進めて、さらなる業務プロセス改善を実現したい」と今後の目標を語り講演を終えました。



PROFILE

国部 潤一郎

Junichiro Kokubu

サントリーグループのバックオフィスシェアード組織であるサントリービジネスシステム(株)経理センターでシェアード化、会計伝票BPO(大連)や決算BPO(熊本)をリード。決算BPOでもPMとして企画・実行を推進している。

サントリービジネスシステム様の 業務を支援

サントリーグループ様の決算BPOは、熊本BPOセンターにて実施。業務の実行部隊となっているのは、(株)BBSアウトソーシングと(株)BBSアウトソーシング熊本のメンバーです。効率的で質の高い決算業務の実施をサポートしています。

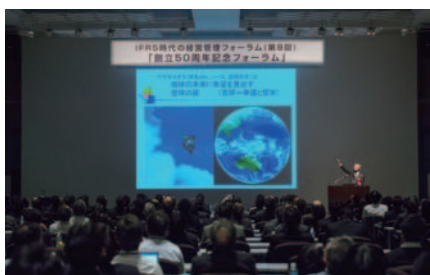
脳を高め情報処理能力を飛躍させるSRS速読法

講師 群馬パース大学 学長 栗田 昌裕 氏

言語系や心象系の能力を高める SRS能力開発で“蝶の読書”を実現

基調講演は、群馬パース大学で学長を務める栗田昌裕氏から、速読を入口とするSRS(スーパーリーディングシステム)能力開発をテーマにご講演いただきました。栗田氏が速読と出会ったのは、1985年のことです。2年後の1987年に日本で初めて1級速読(10万字/分=約1冊)に合格し、SRS能力開発法を完成。1991年からは、この方法論に基づく指導を始め、すべてのクラスで受講者の平均読書速度が10倍以上となる速読を達成しています。

こうした話のあと栗田氏は「速読は不可能」と述べました。そして、「えっ?」と驚く会場に集まったお客様。栗田氏によれば、人間の目は80~90回/分しか動かないため、1行を40文字として読めるのは多くても3,600字。実際、1行ごとにフレーズで読む一般的な読書法では、毎分800~900字程度だと言います。



しかし、言語系や心象系など6領域の能力を磨き高めるSRSを実践することで、一度に2行以上が読めるパラダイムシフトが起こり、まずは初級速読の目標である「文字の配置を面で捉えて2行ずつ読む“面の読書”」が可能になり、最終的には上級速読でめざす「ページを空間内の出来事と見なして読む“蝶の読書”」へと移行すると話を続けていきました。



PROFILE

栗田 昌裕

Masahiro Kurita

医師、医学・薬学博士。東京大学大学院修士課程修了(数学専攻)、同大医学部卒。指回し体操の提唱者。著書は150冊を超え、マスコミでも多数紹介されている。“旅する蝶”アサギマダラの研究者としても知られる。



求められるのは世の中にあふれる情報から 本質を速く的確に捉える能力

SRSで行う訓練の1つが、テレビで何度も紹介されている「指回し体操」です。栗田氏が提唱する訓練は、こうした簡単なものばかりですが、脳を的確に刺激するため、脳内の「入力・処理・出力」という情報処理の3段階が、「分散入力・並列処理・統合出力」に進化します。2日間の研修受講者の場合、初日の朝は800~900字/分だった読書能力が、昼には2,000字/分に。また、翌日の午後から光の読書が始まり、夜には1万字/分を超え、10倍を突破。さらに、脳内のワーキングメモリが増大することでイメージの鮮明度が高まり、数字の認知速度も加速。このほか、運動機能なども向上することが明確な数値で示されると言います。このようにSRSは、速読への取り組みをきっかけに脳の情報処理能力を変革し、知的創造性をトータルに高める能力開発技術であると説明しました。

さらに栗田氏は、2004年から続けている“旅する蝶”アサギマダラの研究にも言及しました。先を予測して時間と空間を自由に飛び回り、福島から台湾までの長旅を可能にしている能力を解明し、学ぶことで、人間が未来を展望する能力開発に反映したいと研究目的に触れたあと、会場で指回し体操を指導。柔軟性の向上を実感した方々が発する感嘆の音が、会場内に響き渡りました。そして最後に、「SRSは大量の情報をスピーディに扱い、本質を捉え、正しく速く社会に適応するための体系。皆さんの仕事にも通じるものがあるはずですよ」とメッセージし、講演を結びました。

業務のペーパーレス化をサポート

帳簿、決算・取引書類保存の電子化で業務効率の向上へ



グローバル・
コンサルティング事業部 事業部長
上原 仁



グローバル・コンサルティング事業部
グローバルファイナンシャル コンサルティング部 マネージャー
矢野 敬一

多くの企業でさらなる業務改革が求められるなか、BBSでは会計・税務分野の経験とノウハウを活かし、帳簿や決算・取引書類保存のペーパーレス化を支援。お客様の持続的な成長に貢献しています。

◆ 法改正を契機に国税関連文書の ◆ ペーパーレス化が加速

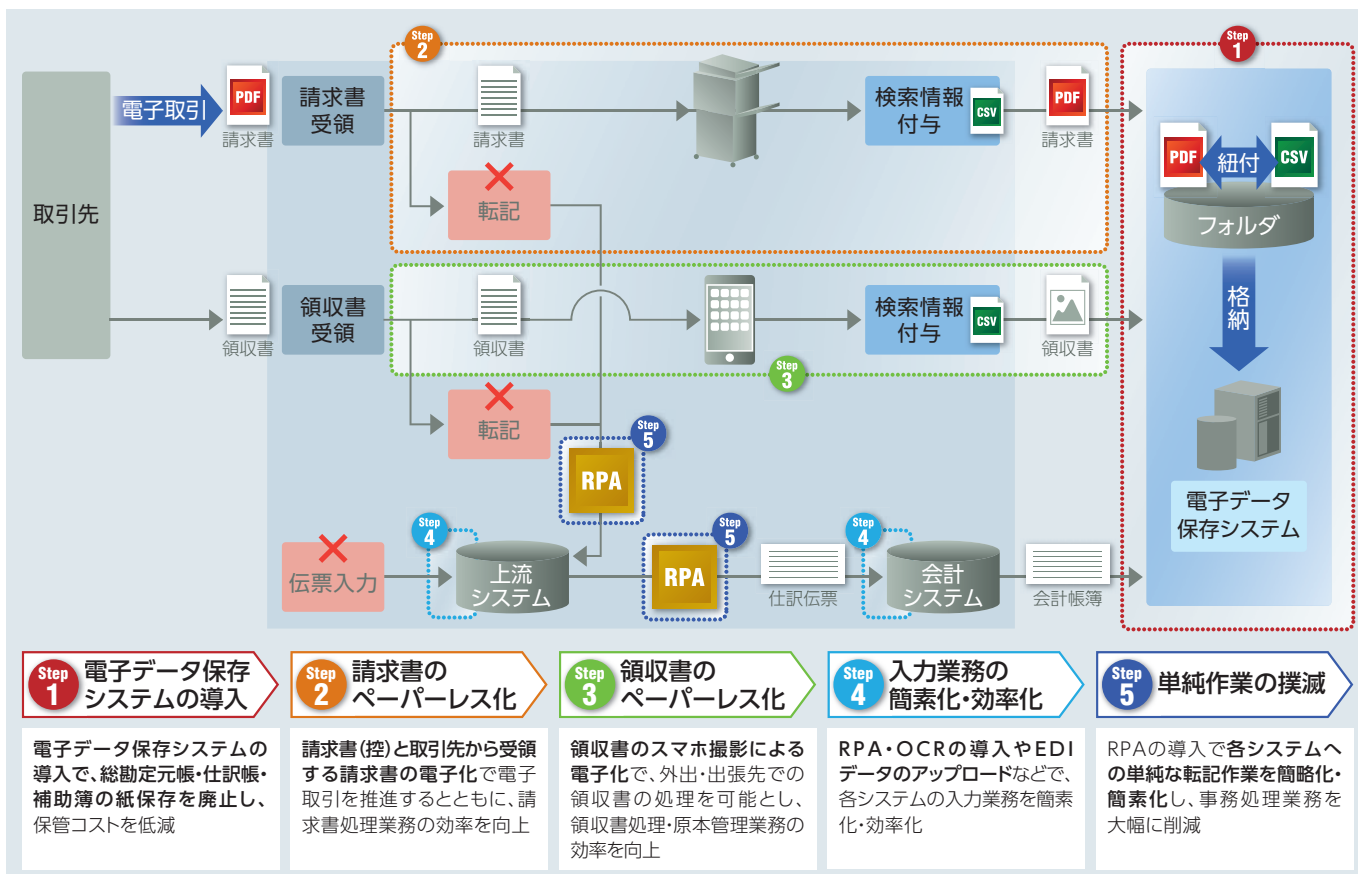
国内の労働人口は減少を続けており、さまざまな業界・業種で“働き方改革”の取り組みが進められています。業務の効率化による生産性の向上や労働環境の改善は、多くの日本企業における共通の課題です。

そうした業務改革を図る上で有効な方策の1つが紙から電子メディアへの移行、すなわち「ペーパーレス化」です。現在、仕訳帳や総勘定元帳、補助元帳などの「帳簿」に関しては、ITソリューションの

活用によるペーパーレス化が徐々に進んでいます。一方、帳簿の基礎資料となる契約書や注文書、請求書といった「書類」に関しては、スキャンデータの「真実性」や「可視性」について厳しい法要件が存在したこともありペーパーレス化がなかなか進まず、その確認や保存を担当する経理部門などの従業員にとって大きな業務負荷となっているのが現状です。

2015年、2016年に実施された「電子帳簿保存法」の改正は、この状況を変えるものです。法改正で適用要件が緩和されたことで、これまで難しかった業務のペーパーレス化が一気に加速すると期待されています。

ペーパーレス業務のめざすべき姿



◆ 法要件に的確に対応する ◆ システムの構築が重要

改正法ではスキャナ保存書類への電子署名が不要になったほか、対象が「3万円以上の書類」に拡大されました。さらに、スキヤニングについても、従来の「固定式スキャナ」だけでなく、スマートフォンやタブレットを使った画像撮影も認められるようになりました。これによって、遠隔地にいる従業員がスキヤニングした領収書なども保存書類として取り扱えるようになり、原本を保存する必要性もなくなりました。ある企業の事例では、従来は東京の拠点に勤務する従業員が受け取った請求書を九州の経理事務センターへ送付するのに2日を要していましたが、ペーパーレス化でこの時間が短縮され、決算の早期化につながっています。

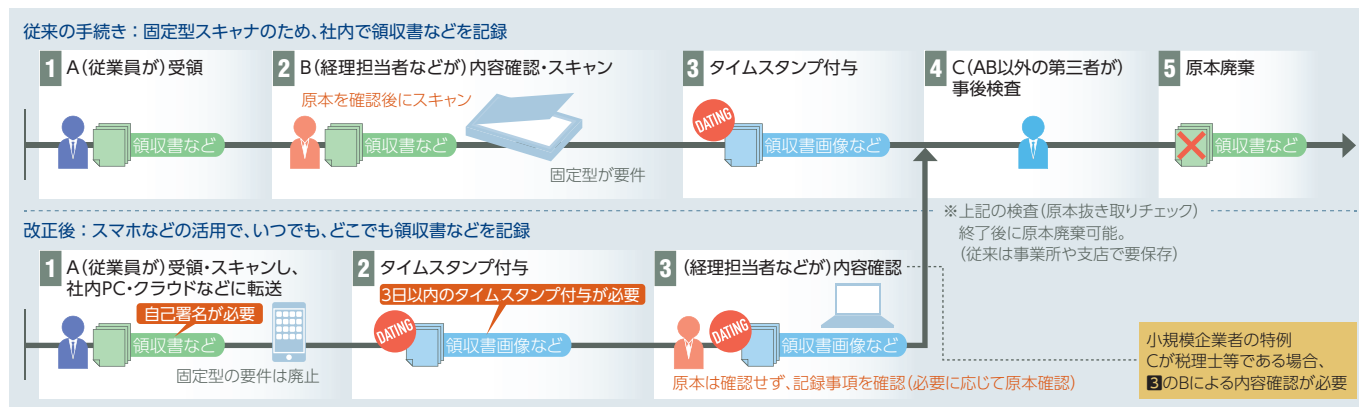
ただし、実際にシステムを構築してペーパーレス化を進めていく際には、注意すべき点もあります。特に重要なのは、法要件への的確な対応です。申請段階では気づかなかったシステムの不備が数年後に税務調査で発覚し、ペナルティを受けるといったケースも存在します。こうしたリスクを回避するには、構想段階からの十分な検討が必要です。

◆ スペシャリストによる一貫サポートで ◆ 「あるべき姿」を実現

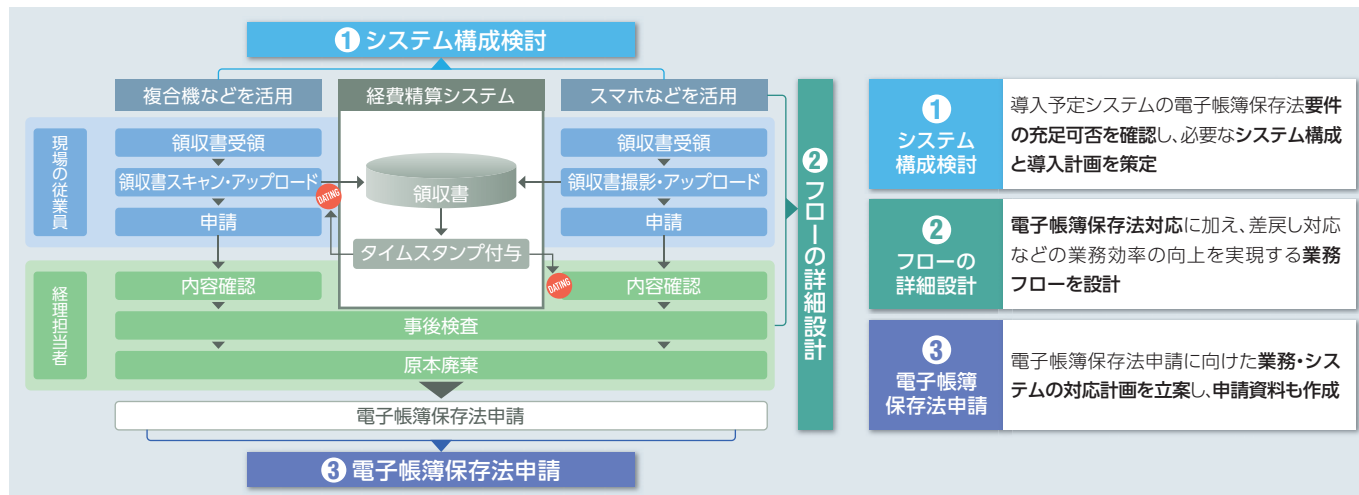
BBSでは、ペーパーレス化による業務効率の向上をめざすお客様のために、ヒアリングや現状調査を通じて業務における課題を抽出・分析。お客様と「あるべき姿」を共有しながらシステム構築を進めています。会計・税務の実務に精通したスペシャリストを多数擁する当社は、実務上使いやすく、かつ法的要件を満たすシステムの設計から開発、税務当局への申請、運用サポートまでを一貫してサポート。開発段階で法的に不明確な要素があれば、お客様とともに税務当局に確認し、細部まで法要件に的確に対応したシステムを構築します。

またBBSでは、RPAをはじめ先端技術の採用による入力作業などの自動化や、課題分析に基づく会計・税務業務の標準化に向けた計画立案・実施など、お客様のニーズに応じた多様な提案を行っています。さらに、今後は貿易業務への対応や、業界固有の法要件のもとで事業を展開しているお客様へのサービスも拡充していきます。

スキャナ保存の法要件



e文書法対応の検討のポイント



“働き方改革”を支える!

人事給与アウトソーシングサービス「Bulas」

BBSアウトソーシングサービスが提供する「Bulas」は、人事給与業務のトータルアウトソーシングサービスです。40年以上の運用実績、最新の法改正や給与知識に基づくナレッジを活かし、多彩なサービスをご提供しています。

お問い合わせ先

株式会社BBSアウトソーシングサービス 営業部

E-mail: sales@bulas180.com TEL: 03-6758-2530

http://home.bbs-os.co.jp/

アウトソーシング導入のメリット

Bulas導入のメリットは大きく6つ。人事部門様、従業員様が本業に注力できる環境をご提供します。

属人化の回避

業務の最適化

システム管理業務負荷の削減

コストの最適化

セキュリティ対策の強化

法改正・バージョンアップなど
システム維持の解消

選べる2つのサービス

お客様の状況に合わせてお選びいただける2つのサービスをご用意しています。

1 クラウド型サービス

人事給与サービス「Bulas Payroll」を中心としたサービスフレームで構成されており、お客様のニーズに適したサービス範囲でご利用いただけます。Bulasは、法制度改正にもリアルタイムに対応しているため、お客様側で意識することなく常に最新バージョンをお使いいただけます。

Bulas Payroll

(人事給与)

Bulas Attendance

(勤怠管理)

Bulas ESS

(申請WF)

Bulas Payslip Mobile

(給与明細)

Bulas Agent

(業務代行)

業務サービス内容(一部)

- 月次給与計算処理
- 入社・退社登録
- 住民税改定処理
- 年末調整処理
- コールセンター
(従業員様直接対応)

2 道具を選ばない! アウトソーシングサービス

パッケージから自社システムまで、どんな人事給与システムでも業務運用を実現。当社のノウハウが詰まった標準運用フローを基本に、お客様保有のシステム特性を反映した運用設計・サービスをご提供します。

他社人事給与システム

他社勤怠管理システム

他社申請WFシステム

他社給与明細システム

Bulas Agent

(業務代行)

業務サービス内容(一部)

- 月次給与計算処理
- 入社・退社登録
- 住民税改定処理
- 年末調整処理
- コールセンター
(年末調整・従業員様直接対応)

編集後記

2018年は一体どのような年になるのでしょうか。今回の表紙は、空に舞い上がる龍神のように今年の運気が上がるように、との思いを込め、華々しい昇り龍を浦正氏に描いていただきました。当社は昨年創立50周年を迎え、BBSグループは現在11社となりました。さまざまな場面で沢山のお客様に出会い、有難いお言葉をかけていただきました。お客様への感謝を忘れず、これからの50年も精一杯精進してまいります。未永くお付き合いいただければ幸いです。



株式会社ビジネスブレイン太田昭和

発行：BBS GROUP NEWS 編集室

〒105-0003 東京都港区西新橋1-2-9 日比谷セントラルビル21F

TEL: 03-3507-1300 FAX: 03-3507-1301

URL: http://www.bbs.co.jp

本誌に対するご意見ご要望を編集室までお寄せください。